

# 道路建設事業の再評価項目調書

事業名	一般国道2号 <sup>ひがしひろしま</sup> 東広島バイパス	事業主体	中国地方整備局				
所在地	<sup>ひろしま ひろしま あき かみせのちょうかみせの ひろしま あき かいたちょうみなみほりかわまち</sup> 広島県広島市安芸区上瀬野町上瀬野～広島県安芸郡海田町南堀川町						
事業概要	<p>一般国道2号は、大阪市から北九州に至る延長約680kmの主要な幹線道路であり、西日本の大動脈として沿道地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。</p> <p>東広島バイパスは、国道2号の慢性的な交通混雑の緩和、交通安全の確保、周辺地域との連携強化を図ることを目的とした延長9.6kmの4車線道路である。</p>						
事業採択年度	昭和50年度（平成8年8月都市計画変更：自動車専用道路への変更（有料））						
総事業費	約1,110億円	既投資額	平成16年度末まで 約660億円（進捗率59%）				
再評価の視点	①事業の必要性に関する点	ア)事業をめぐる社会情勢等の変化 海田町、安芸区での、住宅団地整備やマンション建設等による人口が増加、当該地域に隣接する東広島市における、広島大学の移転及び中央テクノポリスの建設による急速な発展に伴う自動車交通の増加が、広島市東側流入部等における国道2号の慢性的な交通混雑を引き起こしている。 S 59. 3 広島中央テクノポリス事業着手 H 5. 10 広島空港開港 H 7. 11 広島大学統合移転完了 H 9. 5 瀬野みどり坂地区住宅建築開始 イ)費用便益分析(平成17年度価値換算による) (残事業) 事業全体					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>本事業に要する費用(総費用)</th> <th>本事業による効果(総便益)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <b>■事業費</b>                      総事業費※1 (419)1,110億円                      現在価値事業費※2 (267)1,185億円①  <b>■維持管理費</b> (22)37億円②    <b>■残存価値※3</b> (0)29億円③  <b>総費用(C)</b>                      ①+②-③= (289)1,193億円                      ※1:既に登録されている当事業に必要な費用。                      ※2:将来または過去の費用を、現在の価値に換算したもの。                      ※3:評価対象期間末時点で、当該事業に残っている価値。                 </td> <td> <b>■走行時間</b>                      短縮便益 (815)1,240億円④  <b>■走行経費</b>                      減少便益 (48)99億円⑤  <b>■交通事故</b>                      減少便益 (27)48億円⑥  <b>総便益(B)</b>                      ④+⑤+⑥= (890)1,387億円                 </td> </tr> </tbody> </table>		本事業に要する費用(総費用)	本事業による効果(総便益)	<b>■事業費</b> 総事業費※1 (419)1,110億円 現在価値事業費※2 (267)1,185億円① <b>■維持管理費</b> (22)37億円②  <b>■残存価値※3</b> (0)29億円③ <b>総費用(C)</b> ①+②-③= (289)1,193億円 ※1:既に登録されている当事業に必要な費用。 ※2:将来または過去の費用を、現在の価値に換算したもの。 ※3:評価対象期間末時点で、当該事業に残っている価値。	<b>■走行時間</b> 短縮便益 (815)1,240億円④ <b>■走行経費</b> 減少便益 (48)99億円⑤ <b>■交通事故</b> 減少便益 (27)48億円⑥ <b>総便益(B)</b> ④+⑤+⑥= (890)1,387億円
		本事業に要する費用(総費用)	本事業による効果(総便益)				
		<b>■事業費</b> 総事業費※1 (419)1,110億円 現在価値事業費※2 (267)1,185億円① <b>■維持管理費</b> (22)37億円②  <b>■残存価値※3</b> (0)29億円③ <b>総費用(C)</b> ①+②-③= (289)1,193億円 ※1:既に登録されている当事業に必要な費用。 ※2:将来または過去の費用を、現在の価値に換算したもの。 ※3:評価対象期間末時点で、当該事業に残っている価値。	<b>■走行時間</b> 短縮便益 (815)1,240億円④ <b>■走行経費</b> 減少便益 (48)99億円⑤ <b>■交通事故</b> 減少便益 (27)48億円⑥ <b>総便益(B)</b> ④+⑤+⑥= (890)1,387億円				
		評価対象期間 = 整備期間+40年					
費用便益分析の結果 前回評価時 B/C = ( - ) - 今回評価 B/C = ( 3. 1 ) 1. 2 (残事業) 事業全体							
「費用便益分析マニュアル(案)による」 (H15.8.1付け国都街第39号、国道分評第15号通達)							

事業名	一般国道2号 <small>ひがしひろしま</small> 東広島バイパス	事業主体	中国地方整備局
再評価の視点	<p>①事業の必要性に関する視点</p> <p>ウ) 事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・西条駅から広島バスセンター（芸陽バス）等、バス路線の定時制が確保されるなど、路線バスの利便性向上が見込まれる。</li> </ul> </li> <li>・物流効率化の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東広島市から特定重要港湾広島港へのアクセスの向上が見込まれる。</li> </ul> </li> <li>・安全で安心できる暮らしの確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東広島市から第三次救急医療機関である県立広島病院へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul> </li> <li>・生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・NOx, SPM排出量の低減が見込まれる。</li> </ul> </li> </ul> <p>エ) 事業の進捗状況</p> <p>1. 主な経緯</p> <p style="padding-left: 20px;">昭和49年4月 都市計画決定</p> <p>昭和50年度 事業着手</p> <p>平成5年度 海田ランプ工事着手</p> <p>平成6年11月 海田町日の出町地内供用（暫定） L=0.2km（一般部）</p> <p>平成6年12月 地域高規格道路「東広島廿日市道路」の路線指定</p> <p>平成8年8月 都市計画変更</p> <p>平成8年10月 一般部：（県）矢野海田線として海田町曾田～ 海田町日の出町間供用（暫定） L=1.7km</p> <p>平成10年9月 海田ランプ供用 L=0.6km</p> <p>2. 事業の進捗状況</p> <p>○工事の進捗状況</p> <p style="padding-left: 20px;">現在、広島市安芸区中野東町から海田町浜角間について、平成17年度内の供用（2/4）を目指し事業を進めている。 なお、平成16年度末までの工事進捗率は約53%（暫定）である。</p> <p>○用地補償の状況</p> <p style="padding-left: 20px;">平成16年度末において、93%（面積ベース）の用地買収を完了している。</p>		

事業名	一般国道2号 <small>ひがしひろしま</small> 東広島バイパス		事業主体	中国地方整備局
再評価の視点	② 事業進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用地の進捗見込み 現在、全線にわたり用地買収を促進しているところであり、平成17年度末には約98%（面積ベース）の進捗となる見込みである。</li> <li>・ 工事の進捗見込み 現在、広島市側から工事を促進しているところである。また、残る区間についても用地買収が完了した地区より順次工事を着手することとしている。</li> </ul>		
	③ コスト縮減や代替案の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターチェンジのコンパクト化、トンネル内空断面の縮小や新工法の導入によりコスト縮減を図った。</li> <li>・ 建設副産物の発生抑制や再生材利用等により、今後もコスト縮減に努めることとしている。</li> <li>・ また、①②の視点による再評価より代替案を検討する必要はないと考えている。</li> </ul>		
今後の対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業継続 平成17年度末に中野東IC～海田東IC間において供用（暫定）予定。 残る区間についても、平成20年代の全線供用（暫定）を目指し引き続き事業を促進する。</li> </ul>			